

## リレー随筆

## 囲碁の魅力

鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 松元 隼人

## 1. まえがき

鹿児島県内で耳鼻咽喉科診療をしております、松元隼人と申します。リレー随筆とのことで題材にとっても迷いましたが、この1年で変化のあったことを取り上げようと思ひ、筆をとりました。

## 2. 本編

皆さん囲碁をしたことがありますか。私は五目並べなら、中学、高校の時に、数限りなくやっていた覚えがあります。休み時間、授業時間を問わず…。しかし、囲碁には全く触れてきませんでした。なぜなら「よくわからなかった」から。

囲碁について知っていることといえば、「ヒカルの碁」に書いてあったことくらい。ん？「ヒカルの碁」を知らない？それは人生だいぶ損をしていますね。囲碁を知らなくても、この漫画は必ず読んでみることをお勧めします。

私の義父は大層囲碁にご執心だったらしく、結婚時には「『囲碁も打てないような奴に娘はやれない!』と言われたらどうしようか」と考えていた時期もありました。が、そんなイベントも生じず、遠方でもあり、その後も特に必要に迫られることはありませんでした。

そうして、無事に厄年も終わりを迎えたある晩、当時中学1年の長男が私に言いました。

「やっと打ち込めるものに出会えた気が

する。僕、囲碁をしたい。」

聞けば、通っている中学校のイベントで暇を持て余したらしく、ふと将棋でも指してみようと、囲碁将棋ブースに入ったそうです。そこでは将棋盤は全て埋まっており、折角だからと、その場にいた先輩に囲碁盤の前へ誘われたようなのです。その先輩というのもきっと人たらしだったのだとは思いますが、初めて打つ囲碁は思いのほか楽しかったようで、時間いっぱいまでそのブースに入り浸り、その日は遅い帰宅でした。長男はすでにサッカー部に入部していました。楽しんではいるものの、今ひとつ身が入らない、いわゆるエンジョイ勢（対極はガチ勢）というやつでした。

「僕は今まで真剣にやってきたものなんて一つもない」なんて青臭い台詞を吐きながら日常を過ごしていたので、先ほどのようなやる気にあふれる言葉を聞いて非常に驚いたと同時に、非常に嬉しかったことを今でも覚えています。

しかしながら、ここで「こいつどこまで真剣なんだろう」という気持ちと、「そもそも囲碁って…俺もよくわからんし」というネガティブな気持ちがムクムクと湧いてきました。

「新しいことに感銘を受けて、それを始めるということは、とても素晴らしいことだと思うよ。でも、今はサッカーもやるだろ。その場限りの気持ちではなくて、今後どうすべきかは自分で考えて決めなさい。」と言葉を絞りだして、その日は終わ

りました。文化部と運動部の兼部が禁止されているわけでもなかったのに、結局囲碁部は体験入部、サッカー部は継続という方針となりました。

さて、「碁の道を極めるためには、等しく才に長けた者が二人必要なじゃよ」というヒカルの碁の偉い先生の言う通り、長男の求めに応じて碁を打つ日々が始まりました。まずはインターネット上で碁を解説しているHPで、ルールを勉強しました。「ツケ」、「ハネ」、「ケイマ」などの文字が飛び込んできますが、そんなのはどうでも良くて。どうやったら勝ちなのか、何をしたら石がとれるのか、から始まりました。その状態で、無料の囲碁アプリをダウンロードして…いやー本当に便利な世の中になりましたよね。

長男は囲碁部に顔を出す度に同級生や先輩から指導されて、どんどん新しい戦術を覚えていきます。それに劣る私は、時間を使ってとにかく先を読んで応戦するしかありません。それでも初めのうちは私の勝率が良かったものですから、

「お父さんは時間を使ってばかりで早く打ってくれない。僕のほうがたくさん囲碁を勉強しているのにお父さんが勝つのはずるい。」と理不尽なことを言われていました。

私は元来人に言えるような特技は、幼いころから触れていた「空手」くらいしか持ち合わせていませんでした。でも、自分の子供にはまだ負けたくないという気持ちも強く、これまで子供がサッカーを始めたら自分もサッカーをかじり、仮面ライダーを見始めたら一緒に仮面ライダーを見、プラトゥーンを始めたら自分もプラトゥーンをプレイするといったふうに、子供が興味を持ったものを一緒に楽しむ…と言えば聞こえはいいですが、同じ目線で負けない

ように張り合ってしまうことも多かったのです。囲碁に関しても同様で、全力でぶつかり合っていました。

そんな中、一つ問題が発生します。

「うちって囲碁盤がないよね。」

アプリを使うと準備や片付けの手間も要らないですし、地の計算（陣地がどれだけとれているか。多いほうが勝ち）を勝手にやってくれるので、すごく便利なんです。しかし、石をパチッと打ち込むことはできず、五感をフルに使って囲碁を楽しむには、やはり碁盤、碁石が必要であることは自明なことでしょう。義父が使用していた碁盤があるとのことでしたが、福岡までなかなか取りに行く機会もなく。送料もある程度かかるかーと考えあぐねていたところ、私の父という、ちょっと予想外の所から突破口が開きました。

「うちにも昔から伝わる碁盤があるんだぞ。使うなら持って行ってもいいぞ。」と。私の父も、その上の祖父も囲碁なんてしているところを見たことも聞いたこともありませんでしたので、まさか実家にあるなんて思いも寄りませんでした。私は盤の良し悪しなんて全くわかりませんが、足がついていて、カヤ製？なのかな？「ヒカルの碁」では実家の碁盤に虎次郎（本因坊秀策）の血が付いていたという設定でしたが、うちの碁盤には何かを落としたような傷がありました…。

「若いころに碁盤を眺めながら焼酎を飲んでたら、瓶を落としてしまってよー。親父（私の祖父）にばれたらどうしようかと冷や冷やもんだったぞ。」

という、父の若気の至りに由来するものであることが判明しました。おかげで、何の気兼ねもなく、素人2人で使い倒すことが可能になりました。

囲碁に触れるようになってわかったこと

が3つあります。

まず1つ目は囲碁の圧倒的な市民権についてです。家でゲームばかりしていると大抵の家では「勉強しなさい、ゲームの時間減らすよ！」と怒られてしまいます。スマホも同様でしょう。しかし、囲碁であれば「囲碁なら…まあほどほどにね」と幾分柔らかくなること請け合いです。逆に親側が「ぐぬぬ」となることも多いです。我が家はそうでした。

しかも囲碁は履歴書の趣味欄に書けません。囲碁の文字を見つけた面接官は必ず「囲碁なんて君、高尚な趣味持ってるね」と聞いてくるでしょう。「趣味にサッカーは書いたけど、あとは何書こう。読書か映画鑑賞かなあ」と悩んでいた方であれば、「囲碁」というパワーワードのおかげで、この先一生趣味欄に悩むことはなくなります。

「囲碁やってます」と言うと、「すごいね」と返ってくる人が多いです。私も以前まで「すごい」と思う側だったので、気持ちはよくわかりますが、何らすごくはありません。「囲碁のように、なんだか難しそうなものを楽しめているのは感心するわー」ということだと思のですが、この「難しそうな」というものを取り払うことができれば、囲碁ももっと親しみやすいものになるのかもしれないね。

2つ目は囲碁の普及率についてです。「囲碁なんて将棋よりマイナー」と批評されることがよくあり、確かに日本国内についてはその通りです。しかしながら、国内で流行っている将棋に対して、囲碁は世界中でファンを獲得しており、その人口は4千万人程度と目されています。藤井聡太九段のような若くて強いプロの日本人囲碁棋士が現れてくれれば、囲碁ブームも容易にやってくると信じています。現れてくれれば、ですね。

3つ目は、囲碁の楽しさについてです。

囲碁は一手一手で戦局が目まぐるしく変わる頭脳戦を楽しむゲームです。先々まで自分の手、相手の手を読んで、相手に先んじて場をコントロールできた時に、非常に達成感を感じることができます。ここで大事になってくるのは相手との実力差です。元々の実力が伯仲していれば問題ありませんが、逆に大きく離れている場合は一方的になってしまい、お互い全く楽しめません。その際のハンデのつけ方が囲碁は秀逸なのです。

囲碁には「置き石」といって、勝負前に、弱いほうが先に石を置いておくことができます。何個先に置くかで微妙なハンデの調整をすることができるのです。将棋にも「駒落ち」のルールがありますが、調整の細やかさにおいては囲碁に軍配が上がります。ちなみに、相手のほうが強いので自分が置き石を1個置いた状態が転じて、慣用句の「一目置く」となったそうです。

そんなこんなで始めた囲碁ですが、私が仕事にかまけているうちに長男は「定石」なんてものまで覚え始めまして。私の置き石は増えていく一方です。例えるなら、相手はガイドラインを知ってるのに、私だけ知らない状態で診療をしているような状態です。こっそり勉強をして互先（置き石なし）で長男に勝つことが今の私の目標になっています。

長男も結局囲碁部に入部し、逆にサッカーの方が遠のきつつあります。囲碁の部活で帰りが遅くなりがちで、「まったく！」と思うことも多いですが、自分の中学時代を振り返ると…なんて健全なんだと、驚きを隠せないですね。

### 3. あとがき

私の非常に短い囲碁遍歴について、長男

をダシにして、そこはかたなく書きつけてみましたが如何だったでしょうか。

最後までお読みいただきありがとうございました。

この取り留めのない文章が皆様の囲碁に触れる一助になりますと幸いです。

次号は、鹿児島大学病院 乳腺・甲状腺外科／新田 吉陽先生のご執筆です。  
(編集委員会)



図1. 継承された碁盤 白碁石の間に焼酎瓶でできた傷があります